

第1分科会 成立間近！「労働者協同組合法」

国会日程間近になった「労働者協同組合法案」の概要や今後の課題と展望について学習しました。法案の前文では、一人一票の権利を持つ協同労働の働き方や、三位一体の非営利市民事業を行う組織であることが明記され、私たちの主張が盛り込まれています。ただ、労働者協同組合法では組合と雇用契約を結ぶ必要があり、質問もこの点に集中しました。しかし私たちは、自らで働き方のルールを作って運営してきています。雇用契約の相手方となる組合の代表も、自分たちが選んだ代表です。どの法人格を選ぶかは各事業所の判断に任されていますし、運用についても私たちの手に委ねられているのです。法案が成立しても施工までは2年以上かかります。W.Coの社会化と持続可能で活力ある地域社会の実現に向けて、W.Coの選択肢が広がるよう、今後も議論を積みあげていきたいと思います。ういず、COS 北田恵子



第2分科会 みんなで話そう「ワーカーズ・コレクティブだからこそ配送の仕組み」を考える！

「荷物を運ぶだけではない組合員に寄り添う配送の仕組み」を考える！
今回はワークショップ形式の分科会でした。NPO法人〈育自の魔法〉代表の山口ひとみさんをファシリテーターとして、5～6名/グループで6つに分かれ、①配達を通して見える地域の課題 ②配送W.Coができること ③ステークホルダー*に伝えたいこと ④地域で果たす役割の4点について意見交換しました。結論が出るわけではありませんが、参加した皆さんがすでに悩み考えている現状がわかり、組合員や生協組織とともに仕組みづくりに進む一歩になりました。



*企業に対し利害関係のある株主・従業員・消費者等

ワーカーズ・結 風間由加

第3分科会 共に働く「テキトーな働き方のすすめ」

◆滋賀県で「働き・暮らし・応援センター“Tekitoー”」を立ち上げ、就労支援に取り組んで15年の野々村光子さん。「遠慮はいらぬが、配慮を」と企業の社長や行政、地域の応援団をパワフルに巻き込み、働き方の認識まで変えてしまう。長年引きこもっていた人には、「25年間も引きこもれる力を持っている。すごいことだね」との見方。フルタイムは無理でも、3時間の集中力がすごい子は3時間労働にすればいい。その人に合った働き方で、力を引き出すのが「配慮」。信頼できる大人が近くにいることが重要だと語る。◆神奈川県座間市で就労準備支援事業を行う「はたらっく・ざま」は、3自治体から就労支援を受託。支援プログラムを通してこれまで900人の相談事業に取り組んできた。「生活困窮者は経済面だけでなく、孤立が問題。地域がらみで取り組まないと問題は解決しない」と岡田さん。◆やはり、地域や行政への積極的な働きかけと、連携を通じた活動の広がりがキーポイントだと、改めて感じた。風車 猪俣悦子



第4分科会 共にたすけあってくらししていくことができる地域づくり

「地域の寄り合い所 また明日(あした)」代表理事の森田真希さんから問題提起をいただき、地域づくりについてのお話を伺った。報告は3名。名古屋市で居場所事業運営の「愛・1」、北本市で居場所や家事支援事業運営の「てとて」、川崎市で介護保険事業所と新たに居場所事業を開始した「メロディー」。



わっふる 飯沼菜津子

第5分科会 食でまちづくり～食を大切にすることは人を大切にすること～

最初に3事業所の報告があり、その後、食の共同事業会議で作った「メッシーちゃんをを広げよう、ワーカーズのブランド化」についてと、ワーカーズバーガーについて発表しました。この時、私もメッシーちゃんのTシャツを着て応援しました。最後にコメントターの川野栄次氏より、今現在ワーカーズがとても大変なのは分かるが、未来に向けて当初の目的を考え、自分達の武器は何か、地域の誰のためか、その人たちの評価は？ 食の位置をどう若い人に伝えるか！ ターゲットを絞り、病院や学校の先生を狙う、チラシの使い方として美容院に置いてもらうなど、とてもためになるお話を伺いました。ハーブ 田中香麗



第6分科会 実態調査から描く今後のワーカーズ・コレクティブの継続と発展

東京W.Coが2018年に実施した実態調査の報告集に沿って説明があり、その後、グループに分かれてのディスカッションを行い、意見をまとめて発表しました。他単協のワーカーズの抱える問題も、メンバーの不足、次世代へどうつなぐか、時給や社会保障などでした。問題はずっと変わらないと感じ、どう解消していくのかが大きな課題となっていることを再確認しました。ワーコレを推進していくために生活クラブの理解と力がなくてはならないとの意見が多くありました。生活クラブの理事や職員の方々に、ワーコレの働き方を十分に理解していただくことが、大きな鍵になると実感しました。



COS 鳴島美也子

第7分科会 生協活動から地域活動へ

生活クラブでの組合員活動の実績こそが、ワーカーズが存在し、運営が成り立っていることを知りました。20年前に加入したきっかけが当時組合員活動でAさんにトマトケチャップを紹介していただいたことでした。その後、配達ワーカーズに所属した私は、担当した配達先のワーカーズにAさんがいることがわかり、躊躇わずに声をかけました。Aさんは驚き、ワーカーズで働いていることをとても喜んでいただいたことを思い出しました。



ワーカーズ・結 山崎久美子

OPツアー ソーネおおぞねコース

木のぬくもりとゆったり感で
なんかいいことありそーね〈ソーネおおぞね〉

“パンとみんなとしげんカフェ”をフレーズとした〈ソーネおおぞね〉は1960年代建設の11階建て集合住宅の1階にあります。

・ソーネカフェ・ソーネショップ・ソーネしげん・ソーネホール・ソーネそうだん、といった機能を地域の人の集まる場として備えています。そこには高齢のおばあちゃんが買い物に来て、赤ちゃんを連れた家族同士がご飯を食べ、障がいのある人もない人も働き、家でゴミになった新聞雑誌ビン缶古着を持ってきて、お茶を飲んでいける場でした。詳しくは <https://sone-ozone.com>



ワーカーズ・結 風間由加